

生徒指導規程

みらさか小学校生徒指導規程



三次市立みらさか小学校

一年間、家で保管をして活用しましょう。

みらさか小学校生徒指導規程

【前文】

本規程は、児童の主体的な成長を支えるためのものであり、一人一人の状況に応じて柔軟に運用する。

第1章 基本方針

第1条 (目的)

本規程は、本校の教育目標である。

「自立と共生の力をもち、主体的に学び、課題解決する児童の育成」の実現に向け、児童一人一人が**自ら考え、判断し、行動できる力**を育てることを目的とする。

第2条 (基本的な考え方)

本校の生徒指導は、以下の考え方に基づいて行う。

1. **自立**:自分で考え、責任ある行動をとる。
2. **共生**:他者を尊重し、よりよい関係を築く。
3. **主体性**:自ら課題を見つけ、解決しようとする。
4. **安全・安心**:自分と周りの命や心を守る。

第2章 「学校生活に関すること」について

第1節 生活の基本

第3条 基本行動について

児童は、次のことを意識して生活する。

- 自分で考えて行動する。
- 周りの人を大切にする。
- 学びに向かう態度をもつ。
- 安全に気をつける。

第4条 登下校について

- 通学路や通学方法を守り、安全に登下校する。
 - 地域の人へのあいさつを大切にする。
 - 危険な行動を避け、自分の身を守る。
- ※通学班については、状況に応じて柔軟に対応する。

第2節 服装・身だしなみ

第5条 服装について

以下のように学校生活に適した服装で登校する。

- 制服や体操服等の基準を守る。(別紙 I「PTA の基準服について」)
- シャツは、ズボンやスカートの中に入れる。
- ソックスは白・黒・紺色。くるぶし以上で膝下の物とする。
- 体育の時間には、安全のためにシャツをズボンの中に入れ、必ず赤白帽子をかぶりゴムひもをかける。
- 靴は、運動しやすいものにする。
- 上記の服装については、**安全であること、学習に適していること、周囲に影響を与えないこと**を基準として、自ら考えて整える。

第6条 頭髪について

以下のように学校生活に支障のない髪型とする。

- 頭髪は、染色等は禁止し、清潔かつ自然な髪形や長さとする。
- 肩や目にかからない長さで、長い場合はゴムで結ぶかピンで留める。
- ゴムで束ねる場合、結び目は、耳より下で一つまたは二つにまとめる。
- その他の頭髪については、学習や生活に支障がないこと、衛生的であること、安全面に配慮されていることをもとに、各自で判断する。

第7条 持ち物について

- 学習に必要なものを持参する。
- 学習に不要な物や、他の児童の学習の妨げとなる物は持参しない。
- 学習に必要なか、周囲の迷惑にならないかを基準として、自ら考えて選択する。

第8条 校内生活について

① トラブル対応

- 困ったことやトラブルがあった場合は、一人で抱えず相談する。
- 相手の気持ちを考え、解決に向けて行動する。
- 解決が難しい場合は、早めに大人に助けを求める。

② 物の扱い

- 学校の物や他人の物を大切に扱う。
- 破損した場合は、正直に申し出る。

※対応は状況に応じて教育的に判断する。

第3章 「校外生活に関すること」について

第9条 生活について

- 基本的な生活習慣を大切にす。
- 家庭や地域の一員として行動する。
- 自分の役割(手伝い等)を果たす。

第10条 安全について

- 危険を予測し、自分の身を守る。
- 不審者対応(いかのおすし)を理解し行動する。
- 交通ルールを守る。
- 危険を感じた場合は、すぐにその場を離れ、周囲の大人に知らせる。

第11条 外出について

- 外出時は「いつ・どこで・だれと」を家の人に伝える。
- 安全な時間に帰宅する(家庭と相談)。

第4章 情報機器・インターネットの利用

第12条 ICTの活用について

- 学習に役立つ使い方を考える。
- ルールやマナーを守る。

第13条 インターネットの使い方について

- 人を傷つける言葉を書かない。
- 個人情報をむやみに公開しない。
- 知らない人とやり取りしない。

第14条 時間と使い方について

- 使用時間や方法について家庭と相談する。
- 依存的な使い方をしない。

※トラブルが起きた場合は、すぐに大人に相談する。

※学校で使用する端末に関しては、別紙2「iPadの10のやくそく」に基づいて使用する。

第5章 家庭学習

第15条 家庭学習について

- 目的をもって学習に取り組む。
- 自分に合った方法で継続する。

第16条 準備について

- 次の日の準備を自分で行う。
- 忘れ物を減らす工夫をする。

第6章 指導の考え方

第17条 指導の基本について

指導は以下を重視する。

- 理由を理解させる。
- 自分で考えさせる。
- 行動の改善につなげる。

第18条 問題行動への対応について

- 行動の背景を理解する。
- 対話を通して気づきを促す。
- 必要に応じて家庭と連携する。

第19条 責任と回復について

- 自分の行動には責任があることを理解する。
- 謝罪や修復行動を通して信頼を回復する。

第7章 規程違反への対応

第20条 基本的な考え方について

規程に違反する行動があった場合は、単に注意・処罰するのではなく、**児童が自分の行動を振り返り、よりよい行動を選択できるようにすることを目的とする。**

第21条 対応の原則について

違反行為への対応は、次の視点を重視する。

- 安全の確保を最優先する。**
- 事実を丁寧に確認する。**
- 児童の思いや背景を理解する。**
- なぜいけなかったかを理解させる。**
- 自ら考えて行動を改善できるよう支援する。**

※ 判断に迷う場合は、「安全・学習・他者への影響」の観点から考える。

第22条 段階的な指導について

違反の程度や状況に応じて、次のように段階的に対応する。

① 軽微な違反（例：忘れ物、軽いルール違反）

- その場での声かけ・助言
- 自己振り返り（なぜ起こったか、どうするか）

② 継続・繰り返しの違反

- 個別指導（面談）
- 改善に向けた目標設定
- 必要に応じて保護者と連携

③ 他者への影響がある行為

（例：物を壊す、トラブル、迷惑行為）

- 事実確認（複数の視点）
- 相手の気持ちを考える指導
- 謝罪や修復行動の実施
- 保護者への連絡・協働対応

④ 重大な違反行為

（例：安全に関わる行為、法に触れる行為）

- 管理職を含めた組織的対応
- 保護者への連絡・協議
- 必要に応じて関係機関との連携（警察・教育委員会等）

※ 指導は、教職員間で共有し、一貫性をもって行う。

※ 特別な指導においては、「**みらさか学園 生徒指導規定 第4章 特別な指導に関すること**」に従って行う。

第23条 回復的指導について

違反行為に対しては、次の「回復」を重視する。

- 被害を受けた人の気持ちへの理解
- 関係の修復（謝罪・対話）
- 行動の改善

※「罰」ではなく、信頼を取り戻す行動を大切にする。

第24条 保護者との連携について

- 必要に応じて速やかに保護者へ連絡する
- 学校と家庭が同じ方向で指導を行う
- 一方的な対応ではなく、協働して支援する

第25条 個別配慮について

- 発達段階や個々の特性に応じた指導を行う
- 背景（家庭環境・人間関係等）を踏まえて対応する

附則

本規程は、令和8年4月8日より施行する。

なお、本規程は、児童の実態や社会の変化等を踏まえ、必要に応じて見直しを行うものとする。

別紙 I 「PTA の基準服について」

（制服）



（体操服）



あいぱど やくそく
iPadの10の約束

- ① 学習したことを復習したり，まとめたり，調べ学習をしたりするなど，**学びを深めるため**に使用します。
- ② 先生が使用をみとめた時に，iPadを使用することができます。休憩時間は，学習や委員会活動などで先生が使用をみとめた場合のみ，使用することができます。
- ③ iPadを投げたり，床に置いたりせず，**大切に**扱います。また，タッチペンや充電器は，**なくさないように**保管します。
- ④ 先生や友だちがお話をするときは，iPadを閉じ，**画面が見えない状態**にします。
- ⑤ 壁紙や設定，パスワードを**変え**ません。
- ⑥ IDやパスワードは友だちに**教**えません。また，自分のiPad以外使うことはできません。
- ⑦ 写真や動画は，先生が許可した対象のみ撮影します。
- ⑧ 動画を見るなど，音が出るものを使うときは，**音を出さないように**するか，音を小さくします。
- ⑨ 使った後は，**決まった場所**にかたづけ，充電をします。勝手に家に持ち帰ることはできません。
- ⑩ 必要なときには，**先生に中を見**せます。



タブレットを正しくつかおう！

- ①  学習や委員会活動で，先生が使用をみとめた時に使えます。休けい時間は使えません。
- ②  先生や友だちがお話をするときは，**タブレットをとじて**，つくえにおきます。
- ③  壁紙や設定，パスワードを**変え**ません。
- ④  動画を見るなど，音が出るものを使う時は，**音を小さくするか，音を出さないように**します。
- ⑤  使わない時は，**保管庫に入れて**，充電します。出したままにしたり，家に持ち帰ったりしません。

みらさか学園 生徒指導規程

第1章 総則

この規程は、三良坂中学校区で学校教育を受ける児童生徒の人格の完成を目指すとともに、保護者、教職員が協力して次代を担う児童生徒の健やかな成長を図るために定めるものとする。この規程は、義務教育9年間の見直しを持った指導について、三良坂中学校区内で共通認識、共通実践を図るためのものである。

（目的）

第1条 この規程は、三良坂中学校区の各学校の教育目標を達成するためのものである。児童生徒の人格の完成をめざして、自主的・自律的に充実した学校生活を送らせるという観点から必要な事項を定めるものである。

第2章 指導内容について

Ⅰ 学校生活に関すること

（登下校）

第2条 登下校については、次のことを指導する。社会の一員として、交通安全ルールを守り、登下校をする。

(1)小学生の登下校

通学班での登下校を原則とする。集合時間、歩道でのマナーを守り通学路を通る。

(2)中学生の登下校

①徒歩通学は、歩道でのマナーを守り通学路を通る。

②自転車通学は、学校の自転車通学ルールに従い安全に留意して通学路を通る。自転車通学距離は、学校の基準に準ずる。

また、年度初めに「自転車通学届け」を校長に提出し、自転車通学が許可される。

安全確保の面から、自転車、ヘルメットには、記名し、ヘルメットはあご紐をきちんと結び着用する。また、1年生には関係機関の交通安全教室を4～5月に実施し、全員受講させる。ヘルメット未着用、2人乗り、改造自転車、自転車通学許可違反については特別な指導をする。

（登校・遅刻・欠席・早退・外出）

第3条 登校・遅刻・欠席・早退・外出については、次のことを指導し、望ましい生活習慣づくりをするために、登下校等に関する規程を定める。

(1)登校時刻は、各校の細則に準じ、時間厳守とする。

(2)欠席の場合、8:15までに、保護者が欠席の理由を学校に連絡する。

(3)遅刻の場合、8:15までに、保護者が遅刻の理由を学校に連絡する。また、遅刻して登校した場合は、職員室に報告して、授業場所に行く。

(4)早退の場合、緊急時以外必ず、保護者が早退の理由、時間、早退時の下校方法（送迎する人や下校手段等）を8:15までに、予め学校に連絡する。

(5)外出の場合、原則、登校したら、校外には出ない。特別な理由がある場合は職員室に連絡して許可を得る。

（頭髪）

第4条 頭髪については、次のことを指導する。

学習活動や運動等の教育活動の妨げとならない清潔かつ自然な髪形や長さとする。

※改善が見られない場合、特別な指導を行う。

(1)髪形

ア 肩や目にかからない髪の長さとする。

イ 肩にかかる場合は、黒、紺、茶色のゴムで束ねたり、黒ピンで留めたりする。また、ゴムで束ねる場合、結び目は、耳より下で1つまたは2つ結びとする。

(2)染色・脱色・着毛・整髪料・パーマ・そりこみ・ツープロック・アシンメトリー等、不自然な髪型等は禁止する。

※特別、配慮を必要とする場合は、学校へ相談する。

（化粧・装飾・装身具・不要物）

第5条 学校での学習活動に必要でないものは、持参しない。化粧・装飾・装身具・不要物については、次のことを禁止する。

(1)口紅（色付きリップクリームを含む）マスカラ等の化粧類

(2)マニキュア等の爪や皮膚への装飾

(3)ピアス、指輪、ネックレス、ブレスレット、サングラス、カラーコンタクト、ミサンガ等の装身具

(4)眉毛のそり落とし、眉毛の加工

※違反があった場合、特別な指導を行う。

(5)携帯電話や情報通信機器、デジタルカメラ、ゲーム類、マンガ、化粧品、装飾品持ち込み

※違反があった場合は、学校で預かり、保護者に指導した上で返却する。

※違反があった場合、特別な指導を行う。

（指導・身なり等）

第6条 制服等、身なりについては、次のことを指導する。校内外の学習活動及び登下校時（休業日を含む）は、学校が定める制服・基準服（服装）を正しく着用する。

(1)制服等・自由服

①冬服 各学校の服装の細則に準ずる。

②夏服 各学校の服装の細則に準ずる。

③服装の移行 各学校の服装の細則に準ずる。

(2)シャツ

①白のカッターシャツ、ポロシャツを着用し、シャツ出しはしない。

②カッターシャツ等の下には、必ず、衛生面などを考えて、肌着を着用する。色は単色無地とし、シャツの上に目立たないような色を着用する。柄物は禁止する。

(3)ズボン・スカート

①ズボン

ア 腰パン（ズボンをずらした着こなし）や裾擦り（床に裾がつき破れる）変形等は禁止とする。

②スカート

ア スカート丈は、起立した状態で膝の中央が隠れる程度の長さとする。

(4)靴下

①各学校の細則に準じて、白色、黒色、紺色とする。ローソックス、ルーズソックス、色柄の入っているものは禁止とする。

(5)通学靴

①各学校の細則に準じた、運動靴とする。登下校や学習で使用することから機能的なシューズを使用する。かかとを踏まない。

②雨天時や降雪時は、長靴を使用してもよい。

(6)上履き・体育館シューズ

- ①各学校の指定のものを使用する。かかとをふまない。

(7)名札

- ①各学校の細則に準ずる。

(8)セーター・ベスト・カーディガン

- ①各学校の規程に準ずる。黒または紺の単色，無地とし，制服の裾からはみ出さない，また袖は手首より短いものを使用する。

(9)ウインドブレーカー等，防寒着

- ①各学校の細則に準ずる。華美でないもの。
※違反があった場合は，特別な指導を行う。

2 生徒指導

指導を繰り返す児童生徒の場合，特別な指導を行う。

(1)授業や部活動

- ①自分の持ち物には，必ず記名する。
- ②時間（チャイムの合図）を守る。
- ③授業時の挨拶，返事，言葉づかいを大切にす。
- ④学習については，各学校でのガイダンスの内容を守る。

(2)休憩時間

- ①学校の外や，立ち入り禁止場所には行かない。
- ②校内放送は，静かに聞く。
- ③特別教室や，他の教室には，勝手に入らない。
- ④廊下等，校内を走らない。
- ⑤学校の施設や道具，草花や樹木，飼育動物を大切にす。
- ⑥整理整頓をする。（靴箱，机，ロッカー，掃除道具入れ，掲示物等）

(3)保健室利用

- ①体調がすぐれない場合，保健室を利用することができる。利用時間は，2時間程度として，体調の回復が見込めない時は，学校から保護者に連絡をする。
- ②度重なる保健室の利用の場合，保護者に連絡し，医療機関への受診をすすめる。
- ③虐待の疑われる場合は，学校より関係機関に通告し連携して支援する。
※虐待：身体的，性的，ネグレクト，心理的虐待または疑われる場合。
※保護者としての監護を著しく怠る等，疑われる場合。

(4)給食

- ①衛生面に注意して給食当番等をする。

(5)掃除

- ①掃除は，学校の環境を整える学習活動の一つである。時間いっぱい丁寧に掃除をする。

(6)教育相談

- ①学校は，児童生徒，保護者から教育相談の希望があった場合，スクールカウンセラーやこども応援センター等と連携する。

(7)その他

- ①卒業生や部外者の学校内への無断立入りは禁止する。用事のある場合は，職員室へ連絡する。学校の敷地内に入り，指導したにも関わらず，校外に移動しない場合，関係機関と連携する。

- ②学校内の施設設備，備品等を破損した場合や発見した時は，職員室に届け出る。場合によっては，関係機関と連携する。

- ③ケガや体調不良で，保護者に送迎をしてもらう場合は，学校の正門前や地域住民の迷惑になる場所で乗降車しない。

- ④上記，記載以外の内容については，各学校の細則に準ずる。

第3章 校外での生活に関すること

(校区外の生活)

この章については，保護責任の観点から保護責任についても記載する。

本章の指導は，学校・家庭・関係機関が連携をとり指導する。指導を繰り返す児童生徒の場合は，特別な指導を行う。

第7条 校区外の生活については次のことを指導する。

- (1)児童だけでの校区外への外出

- (2)生徒だけでの市外への外出

- (3)児童生徒だけでの娯楽施設への入店（カラオケボックス，ゲームセンター，インターネットカフェ，ボーリング場，マンガ喫茶，ビデオ取扱店，映画館，大型店舗内のゲームコーナー，レンタルビデオ取扱店等）

- (4)児童生徒だけでの外泊や夜間徘徊禁止

- ①保護者は，夜間（午後11時から翌日午前4時までの時間）児童生徒を外出させないようにする。

- ②保護者は，広島県青少年健全育成条例により，娯楽施設の利用にあたっては，同伴の場合であっても，夜間の利用はしないようにする。

- (5)情報通信機器

- ①三次市は，学校への携帯電話の持込を原則禁止している。携帯電話等の情報通信機器については，家庭でのルールづくり，夜間の携帯電話の保管場所，情報通信機器（パソコン・ゲーム機等）のフィルタリングに努める。

- (6)酒・たばこ類等の購入

- ①保護者は，酒，たばこ類を児童生徒に購入させないようにする。

- (7)危険個所への立入り

- ①保護者は，立入り禁止箇所や廃屋，池等危険が予想される場所に児童生徒を立入らせないようにする。

- (8)交通違反

- ①保護者は，児童生徒を道路交通法に違反させないようにする。

第4章 特別な指導に関すること

（特別な指導）

「社会で許されないことは、学校においても許されない。」ことであり、児童生徒が起こした問題行動を反省させ、事後よりよい学校生活を送るために自己を振り返り、適切な行動ができるよう指導する。

（問題行動への特別な指導）

第8条 問題行動を起こした児童生徒には、教育上、必要と認められる場合は、特別な指導を行う。但し、発達段階や常習性も配慮し指導を行う。

（1）法令・法規に違反する行為

- ①窃盗・万引き・占有物離脱横領
- ②喫煙・飲酒
- ③暴力・威圧・強要行為
- ④公共建造物・備品等器物損壊
- ⑤交通違反
- ⑥性に関するもの
- ⑦薬物等乱用
- ⑧刃物等所持
- ⑨その他の法令・法規に違反する行為

（2）学校の規則等に違反する行為

- ①暴力行為（対教師・生徒間・対人・器物損壊）
※相手に外傷等がなくても有形力の行使が暴力行為となる場合もある。（体当たりや腕で突く、胸ぐらをつかむ等）
- ②喫煙・飲酒及び準備行為（購入・所持・行為同一場所滞在）
- ③いじめ
定義「一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的苦痛を感じているもの」
- ④登校後の無断外出、無断早退
- ⑤指導に従わない（指導無視・暴言・授業エスケープ・授業中の無断立ち歩き・授業妨害行為等）
- ⑥携帯電話の持込み
- ⑦学習等に必要のない不要物持込み
- ⑧不正行為（テスト等のカンニング等）
- ⑨家出及び深夜徘徊
- ⑩金品強要
- ⑪無免許運転及び同乗
- ⑫無断アルバイト
- ⑬暴走族等、関係団体への加入及び参加
- ⑭不健全娯楽や不純異性交遊
- ⑮情報機器等を介した誹謗中傷の書き込み
- ⑯その他、学校が教育上指導を必要とすると判断した行為

（反省指導等）

第9条 特別な指導のうち、反省指導等は、次の通りとする。但し、発達段階や常習性も配慮し指導を行う。

（1）説諭による指導

①口頭による説諭指導（短時間での指導）

（2）学校反省指導

①別室による反省指導

（1～2時間→半日→1日→3日→5日）

②授業観察による反省指導

（1日→3日→5日）

③奉仕作業による反省指導

（1日→3日→5日）

④教育相談と反省指導を複合した指導

（スクールカウンセラー・こども応援センター等）

⑤保護者来校による授業観察指導

（半日→1日→3日→5日）

⑥学校と保護者による協議

（反省指導の実施）

第10条 反省指導の実施については、原則、学校反省とする。

（1）反省指導は、登校させて別室で行う「別室反省指導」と通常の学校生活（授業等）で行う「授業反省指導」の2段階がある。

①反省指導期間中にある定期テスト等は別室で受験する。

②反省指導期間中にある学校行事や部活動の公式大会への参加は、別途協議する。

（反省指導の期間）

第11条 反省指導の期間については、次の通りとする。

別室反省指導の期間は、概ね1時間から5日とし、授業反省指導の期間は、概ね1日から10日とする。ただし、発達段階や問題行動の程度、繰り返し等により指導期間を変更することがある。

（特別な指導を実施するにあたって）

第12条 特別な指導は、児童生徒が自ら起こした問題行動に気づき、振り返る時間を通して、その時の適切な行動は、どうすればよかったのかについて考える。同じ問題行動を繰り返さずに、事後よりよい学校生活を送り、人格の形成を行うためのものである。この観点から、実施にあたっては、次の事項について明確にする。

（1）特別な指導は、学校体制として取組み、事実の確認、反省（振り返り）、再発防止のための具体的な約束や展望を持たせる。

（2）特別な指導を行うに当たっては、十分な事実確認を行い、指導記録を残す。

（3）特別な指導のねらいや期間、指導計画を明確にし、児童生徒・保護者・教職員で確認する。

（4）法令・法規に違反する行為、いじめ、暴力行為、その他、児童生徒で、指導を繰り返す場合は、関係機関に相談し、学校と関係機関及び保護者が連携して指導する。

（5）反省期間については、形式的にならないようにし、目的を明確にし、短期間で行う。（目安となる日数を第11条に明記）また、児童生徒の発達の段階も考慮して効果的に行う。

(規程の周知)

第13条 児童生徒を対象とする全校集会や保護者を対象とする入学説明会, 全保護者が出席する入学式, PTA総会, 学級懇談会, 地域懇談会等で直接説明を行う。また, ホームページでの公開や, 学校に来校のない保護者には, 家庭訪問や郵送等を通じて, 周知の徹底を図る。

(反省指導の内容)

「事実確認表」「振り返り表」「反省指導記録表」により指導する。

附則 この規程を基に, 詳細については各小中学校の細則に準じる。

附則 この規程は, 平成24年4月1日より
実施する。

附則 平成27年4月1日一部改訂

附則 平成31年4月1日一部改訂

附則 令和5年2月1日一部改訂